登録No. S-129
登録名 Encorafenib/Cetuximab/mFOLFOX6療法
催吐性リスク 中等度
適応疾患 結腸・直腸がん
投与スケジュール

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	ﾍﾊﾟﾘﾝNaﾛｯｸ用ｼﾘﾝｼﾞ	1本/body		d1･3	CVポート		ポートフラッシュ用
Rp.2	パロノセトロンﾊﾞｯｸﾞ デキサメタゾン ﾏﾚｲﾝ酸ｸﾛﾙﾌｪﾆﾗﾐﾝ	50mL/body 9.9mg/body 5mg/body		d1	CVポート	30min	
Rp.3	セツキシマブ 生食	500mg/m^2 250mL/body		d1	CVポート	120min	前投薬終了後より投与開始
Rp.4	生食	100mL/body		d1	CVポート	60min	薬剤ﾌﾗｯｼｭ・経過観察目的
Rp.5	レボホリナート 5%ブドウ糖液	200mg/m^2 250mL/body		d1	CVポート	2hr	
Rp.6	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液	85mg/m^2 250mL/body		d1	CVポート	2hr	レボホリナートと同時投与
Rp.7	5%ブドウ糖液	100mL/body		d1	CVポート	全開	フラッシュ用 オキサリプラチン・フルオロウラシル 急速静注後
Rp.8	フルオロウラシル 生食	400mg/m^2 50mL/body		d1	CVポート	全開	
Rp.9	フルオロウラシル 生食	2400mg/m^2 適量		d1	CVポート	46hr	インフューザーポンプ使用 生食量は換算表参照
Rp.10	エンコラフェニブ	300mg/body/day （1回300mgを1日1回）		d1～d14	p.o.		

1クールの期間 2週間
標準クール数 無し
最大クール数 PDまで
休薬期間の規定
投与間隔短縮の規定
その他（副作用・PS規定等）

PS： 0-1
開始基準： 好中球数≧1,500/μL、血小板≧10万/μL、Hb≧9.0g/dL、Ccr≧50mL/min、T-Bil≦1.5×ULN、AST・ALT≦2.5×ULN
減量基準： BREAK WATER試験参照
セツキシマブ用量調節： infusion reaction：Grade3以上の場合は中止、再投与禁。
Grade1～2は投与速度を緩める。緩めた後、再度出現時も投与禁
Grade3以上の皮膚症状時は用量調節（500mg/m^2→400mg/m^2→300mg/m^2）
エンコラフェニブ用量調節： 1段階減量：225mg 1日1回→2段階減量：150mg 1日1回→3段階減量：投与中止
mFOLFOX6療法： L-OHP：85mg/m^2→65mg/m^2→50mg/m^2→40mg/m^2、5-FU（急速）：400mg/m^2→200mg/m^2→中止、
（持続）2400mg/m^2→1920mg/m^2→1600mg/m^2→1360mg/m^2
副作用： ざ瘡様皮疹、末梢神経障害、骨髄抑制、消化器症状、低マグネシウム血症、間質性肺炎、皮膚悪性腫瘍、眼障害（網膜障害、ぶどう膜炎）
手掌・足底発赤知覚不全症候群、心機能障害、インフュージョンリアクション、皮膚色素過剰、筋肉痛・関節痛、腫瘍崩壊症候群など